

研究活動報告（アルファベット順）

2006年（1月1日から12月31日）における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動企画・推進委員会よりの依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限定されていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名、(専門領域)、I. 著訳書、II. 学術論文、III. その他の著作（研究ノート、ニュースレター報告書、雑誌、新聞等）、IV. 学会発表、V. その他の発表（シンポジウム、講演、放送等）、VI. 学会および公的な機関の委員、VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

智原 哲郎（ちはら・てつろう）〔言語能力評価法〕

I. 著訳書

- (1) 「日本における初年次教育の実践事例—第11章 大阪女学院大学」, 『初年次教育—歴史・理論・実践と世界の動向』濱名篤 他 編著, 丸善, PP. 149-173, 2006年11月, 共著

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 「カリキュラムの裏側」, 兵庫県立御影高校教育課程研究会, 於：兵庫県立御影高校, 2006年3月31日
- (2) 「大学における外国語教育」, 大学における外国語教育に関する懇談会, 於：文部科学省, 2006年7月3日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本言語テスト学会 新事業企画委員
- (2) 大学英語教育学会関西支部 評議員
- (3) 特色ある大学支援プログラム第2 審査部会 委員主査
- (4) 和歌山県立那賀高校 SELHi 運営指導委員会運営指導委員
- (5) 短期大学第三者評価委員会 評価委員グループ責任者

Cornwell, Steve (コーンウェル・スティーブ) [Education, TESOL]

II. 学術論文

- (1) “The revival of BELTA: Professional Development in Bangladesh.” *The Teacher Trainer Journal*, 2006年11月, 共著
- (2) “Negotiating Academic Practices, Identities and Relationships in a Doctoral Program: A case from an overseas institution in Japan.” *TESL-EJ*, 2006年9月, 共著

III. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) “Getting Started Teaching Online: Some Considerations.” 『大阪女学院大学紀要』 2号, 2006年3月1日, 単著
- (2) “Implementing Criterion: Initial findings.” 『大阪女学院大学紀要』 2号, 2006年3月1日, 共著

IV. 学会発表

- (1) “Techniques to get the most out of your textbook.” Bangladesh English Language Teachers Association, 於：Dhaka, Bangladesh, 2006年3月1日
- (2) “How to Get Published.” Temple University and Fukuoka Jalt (Plenary), 於：Fukuoka, 2006年6月11日
- (3) “How to Get Published.” JALT, 於：Kokura, Kitakyushu, 2006年11月4日
- (4) “Community of Practices: Co-constructing a community of qualitative researchers.” JALT, 於：Kokura, Kitakyushu, 2006年11月4日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT, Jalt Journal, editor
- (2) JALT, The Language Teacher, Editorial Advisory Board member

Fujimoto, Donna (フジモト・ドナ) [TESL, Intercultural Education]

I. 著訳書

- (1) “Stories through perceptual frames.” In A. Curtis & M. Romney (Eds.), *Color, race, and English language teacher: Shades of meaning*, (pp.37-48), Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates, Publishers, 2006年, 単著

II. 学術論文

- (1) “Nikkei perspectives: Emerging narratives.” *Tokyo: JALT*, (pp.928-939), JALT 2005 Proceedings, 2006年, 共著

III. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) “Studying Long-Term Resident Nikkei in Japan.” *ICIS Newsletter (TESOL Intercultural Communication Interest Section)*, Vol. 3, No. 1, 2006年3月, 単著

IV. 学会発表

- (1) “Disagreement as a Source of Mediation: The Case of the Speech Contest.” Temple University Japan Colloquium, 於：Temple University Japan, Osaka, 2006年2月6日
- (2) “But is it Really Process Writing?” 40th Annual TESOL Convention, 於：Tampa Bay, FL, USA, 2006年3月18日
- (3) “The Pragmatics of Coaching.” 5th Annual JALT Pan SIG Conference, 於：Tokai University, Shimizu, Shizuoka, 2006年5月14日
- (4) “Evaluating EFL Group Discussions.” FEELTA Conference (Far East English Language Teachers Association), 於：Birobidjan, Russia, 2006年6月23日
- (5) “Groups at work: Pragmatics and Group Interaction.” JALT (Japan Association of Language Teaching), 於：Kokura, Kitakyushu, 2006年11月14日
- (6) “A Sense of Community through Nikkei Identity.” JALT (Japan Association of Language Teaching), 於：Kokura, Kitakyushu, 2006年11月5日

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) “Contrast Culture Method workshop: Team Teaching.” Kobe City University of Foreign Studies, 於：Kobe City University of Foreign Studies, 2006年12月23日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) SIETAR (Society for Intercultural Education, Training and Research) Co-Program Chair
- (2) Pragmatics SIG (Special Interest Group of JALT) Publicity Chair
- (3) Contrast Culture Method SIG (SIETAR) Coordinator

Hansen, Jerrod (Cultural Anthropology, esp Study abroad and Culture change)

III. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) “The Development of Study Abroad Programs: The Full Course Experience.” *Proceedings of the 2006 Temple University Applied Linguistics Conference*, Temple University-Japan, Osaka, Japan.

IV. 学会発表

- (1) “The Development of Study Abroad Programs: The Full Course Experience.” 2006 Temple University Applied Linguistics Conference, 於：Temple University-Japan. Osaka, Japan, 2006年2月

- (2) “Issues and Solutions Concerning Overseas Student-Host Family Compatibility Issues and Solutions Concerning Overseas Student-Host Family Compatibility.” Poster Presentation at the 2006 NAFFSA: Association of International Educators Annual Conference, 於：Montreal, Canada, 2006年5月

原田 純子 (はらだ・じゅんこ) [舞踊学, 舞踊教育学]

II. 学術論文

- (1) 「外に向けて拓かれていく身体と心—創造的身体表現活動の価値を考える—」, 『人体科学』第15巻第2号, 平成18年10月, 単著

IV. 学会発表

- (1) “Inclusive dance workshop and its influence on the leaders’ minds.” Asian Society for Adapted Physical Education and Exercise (ASAPE), 於：活水女子大学, 2006年8月1日～3日
 (2) 「身体表現・ダンスの活動の機能と因子構造に関する研究 (共同研究)」日本体育学会, 於：弘前大学/弘前文化センター, 2006年8月18日～20日
 (3) 「舞踊鑑賞における伝達構造—ライブ鑑賞とビデオ鑑賞の比較— (共同研究)」, 舞踊学会, 於：専修大学 (神田キャンパス), 2006年12月2日～3日
 (4) 「ダンス授業における受講生の気づきに関する研究 (共同研究)」, 舞踊学会, 於：専修大学 (神田キャンパス), 2006年12月2日～3日
 (5) 「舞踊鑑賞者の眼球運動に着目した感性情報処理の試み—アイカメラを用いた鑑賞者の視線分析— (共同研究)」, 情報処理学会・人文科学とコンピュータシンポジウム, 於：同志社大学, 2006年12月14日～16日

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「身体表現の力」, 第125回醍醐会, 於：京大会館, 2006年1月29日
 (2) 「子育て支援セミナー・身体表現の力を体感しよう—より豊かなコミュニケーションのために—第2回ほぐれる・おどる・つながる」, (財)子ども教育支援財団・(財)総合教育研究財団, 於：人間力開発センター, 2006年2月25日
 (3) 「子育て支援セミナー・身体表現の力を体感しよう—より豊かなコミュニケーションのために—第4回感じる・築く・輝く」, (財)子ども教育支援財団・(財)総合教育研究財団, 於：人間力開発センター, 2006年3月21日
 (4) 「舞踊公演 “光月の舞”」, ボディトーク協会, 於：神戸一ノ宮神社, 2006年10月1日
 (5) 「女性のためのストレスマネジメント講座～こころとからだをほぐしましょう①」, 大阪市立男女共同参画センター, 於：大阪市立男女共同参画センター南部館 (クレオ大阪南), 2006年11月10日
 (6) 「子育て支援セミナー・身体表現の力—響きあう生命のために—」, (財)子ども教育支援財団・(財)総合教育研究財団, 於：神戸市北区民センター, 2006年11月23日
 (7) 「子育て支援セミナー・身体表現の力—響きあう生命のために—」, (財)子ども教育支援財団・(財)総合教育研究財団, 於：岡本好文園ホール, 2006年11月26日
 (8) 「公開ダンス・ワークショップ “ダンスで出会う・ダンスでつながる”」, 国立民族学博物館, 於：国立民族学博物館, 2006年12月5日～6日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大阪府立豊中高等学校 学校協議会協議委員

井上 文彦 (いのうえ・ふみひこ) [心理学]

III. その他の著作 (報告書・雑誌・新聞等)

- (1) 「スーパーヴィジョンにおけるエンプティ・チェアの活用」, 『現代のエスプリ467』, 2006年

6月1日, 単著

- (2) 「座談会／エンプティ・チェアをめぐる」, 『現代のエスプリ467』, 2006年6月1日, 共著

IV. 学会発表

- (1) 「わが国におけるゲシュタルト心理臨床の実際」(研修会講師), 日本心理臨床学会, 於: 関西大学, 9月15日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「カウンセリング概論」, 関西いのちの電話, 於: 博愛社, 5月18日
(2) 「ゲシュタルト療法ワークショップ」, 日本ゲシュタルト療法研究所, 於: 高野山普賢院, 8月10日~12日
(3) 「ロールプレイ実習」, 関西カウンセリングセンター, 於: 南YMCA, 8月26日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本人間性心理学会 常任理事・自主プログラム助成委員長
(2) 関西いのちの電話 理事
(3) 関西カウンセリングセンター スーパーバイザー
(4) PHP こころの電話相談室 スーパーバイザー

Johnston, Scott (ジョンストン・スコット) [International Education; Intercultural Communication]

I. 著訳書

- (1) “Taking American Students for a Cultural Plunge into Japan and Avoiding the Tourist Experience & Returning to Japan: Initial Cultural Challenges”. In M.O. Afolayan, D. Browne, and D. Jules (Eds.), *Current Discourse on Education in Developing Nations: Essays in Honor of B. Robert Tabachnick and Robert Koehl* (pp. 237-255), New York: Nova Science Publishers, Inc. Chapter in a book, 2006

III. その他の著作(報告書・雑誌・新聞等)

- (1) “Implementing Criterion: Initial Findings.” 『大阪女学院大学紀要』2号, 2006年3月2日, 共著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Criterion Seminar.” 国際教育交換協議会(CIEE)日本代表部, 於: Osaka Jogakuin College, 2006年8月18日

梶原 直美(かじはら・なおみ) [古代キリスト教史]

II. 学術論文

- (1) 「オリゲネスの祈祷における恩恵理解—『祈りについて』に基づく一考察—」, 『神學研究』53号, 2006年3月31日, 単著

III. その他の著作(報告書・雑誌・新聞等)

- (1) 書評論文「土井健司著『愛と意志と生成の神』(教文館、2005年)」, 『神學研究』53号, 2006年3月31日, 単著

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) キリスト教学校教育同盟 教育研究委員会中央委員
(2) キリスト教学校教育同盟 大学部会関西地区委員

垣本 充(かきもと・みつる) [予防医学, 食物学, 環境科学]

II. 学術論文

- (1) “Fatty Acid Intake of Lacto-ovo-vegetarian Adolescents in Japan.” *Vegetarian Research* 7(1), 2006年12月, 単著

Ⅲ. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) 「日本のベジタリアン運動の過去と未来 1」, 『生活医学ジャーナル』566号, 2006年1月, 共著
- (2) 「日本のベジタリアン運動の過去と未来 2」, 『生活医学ジャーナル』567号, 2006年2月, 共著

Ⅳ. 学会発表

- (1) “Use of Laver (Porphyra) for Vegetarians as a Vitamin B12 supplement (Poster Session).” The 37th IVU World Vegetarian Congress, 於: Goa, India, 2006年9月11日
- (2) 「動物性食品摂取調査に基づくベジタリアン調査Ⅱ —女子大学生と中高年女性の比較」, 第6回日本ベジタリアン学会大会, 於: 京都会館, 2006年12月2日

Ⅴ. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 「英国のベジタリアン事情とEUの食品安全政策」, 日本ベジタリアン協会フェスタ2006, 於: 大阪国際会議場, 2006年5月21日
- (2) 「ベジタリアン概説」, 三重県健康推進協議会・食の研修, 於: 鳥羽商工会議所, 2006年10月24日

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本ベジタリアン学会 理事長
- (2) NPO 法人・日本ベジタリアン協会 代表理事
- (3) International Vegetarian Union, International Councilor, Patron
- (4) Vegetarian Research, Honorary Editor
- (5) Journal of Environmental Information Science, Reviewing Committee
- (6) (社)環境情報科学センター 「環境情報科学」査読委員
- (7) (財)クナイブ療法協会 顧問
- (8) 米国法人・国際地球環境大学 (I. E. E. U.) 客員教授

加藤 映子 (かとう・えいこ) [言語習得]

Ⅲ. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) 「英語で学ぶためのツール」, *Mac People*, 2006年12月, 単著

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「999 Listening Materials at Your Finger Tips」, LET 関西支部春季大会, 於: 流通科学大学, 2006年5月13日
- (2) 「iPod+教材開発=∞」, LET 全国大会ワークショップ, 於: 京都産業大学, 2006年8月2日

Ⅴ. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 「大学でこんな英語を学んでみよう! Content-based English Approach」, 高大連携, 於: 宝塚西高校, 2006年11月21日
- (2) 「携帯型音楽プレーヤーを活用した英語教育」, 千葉県情報教育部会秋季研究大会, 於: 千葉県総合教育センター大ホール, 2006年11月29日

小松 泰信 (こまつ・やすのぶ) [図書館情報学]

Ⅲ. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) 「学習支援者養成プログラム実施報告書 第6章 学習のデジタル記録化と Web 教材化の可能性」, 『女性のキャリア形成のための情報リテラシー獲得支援事業報告』, 平成17年度文部科学省生涯学習政策局委託, 2006年3月, 共著

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「情報リテラシー科目の eラーニング化と図書館の役割」, 日本図書館研究会, 於: 桃山学院大学, 2006年2月19日~20日
- (2) 「e-Learning システムによる学習の成立基盤について」, 日本教育心理学会, 於: 岡山コンベ

ンションセンター, 2006年9月16日～18日

- (3) 「携帯電話・ブログを利用した新しい行動記録法の開発」, 認知科学会, 於: 中京大学, 2006年8月2日～4日
- (4) 「e-Learning システムによる学習の成立基盤について—学習場所のあり方」, 日本心理学会, 於: 福岡国際会議場, 2006年11月3日～5日

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「MP Meister LMS による大学教育への適用」, (株)リコー MP Meister フォーラム, 於: 東京ドームホテル, 2006年7月12日

馬淵 仁 (まぶち・ひとし) [教育社会学, カルチュラル・スタディーズ]

II. 学術論文

- (1) 「多文化教育の行方」, 『オーストラリア研究』第18号, 2006年3月, 単著
- (2) 「文化本質主義脱却の試み」, 『インターカルチュラル』No. 4, 2006年4月, 単著
- (3) 「異文化間教育の捉え直し」, 『異文化間教育』24号, 2006年6月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「文化の捉え方を問いなおす」, 日本国際文化学会, 於: 東北大学, 2006年6月10日
- (2) 「多文化主義と異文化理解主義」, 日本比較教育学会, 於: 広島大学, 2006年6月24日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 異文化間教育学会 常任理事・事務局長 2003年～

VII. 科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「異文化間教育に関する横断的研究—共通のパラダイムを求めて—」平成17年度科学研究費補助金 基礎研究 (B) (1), 2004年～2006年

McCarty, Steve (マッカーティ・スティーブ) [バイリンガリズム, オンライン教育, 日本学, アジア学]

I. 著訳書

- (1) “Theorizing and Realizing the Globalized Classroom.” *Globalized E-Learning Cultural Challenges*, pp. 90–115, 米国: Idea Group Publishing, 2006年7月, 単著
- (2) “Global Online Education.” *The International Handbook of Virtual Learning Environments*, Volume I, pp. 723–787, ドイツ・オランダ: Springer, 2006年4月, 共著
- (3) “Global Virtual Organizations for Online Educator Empowerment.” *The International Handbook of Virtual Learning Environments*, Volume I, pp. 789–819, Springer, 2006年4月, 共著

III. その他の著作 (報告書・雑誌・新聞等)

- (1) “Information Communication Technologies in Asia: An Interview with Steve McCarty.” *CALL Review*, pp. 37–40, 英国: International Association of Teachers of English as a Foreign Language (IATEFL), 2006年8月, 共著
- (2) “Interview with Professor Eiko Kato, First in the World to Apply iPods to Education.” 東京: 国際大学、グローバル・コミュニケーション・センター, GLOCOM, 2006年3月, 共著
- (3) 「Podcaster Interview: 『Japancasting』のステイーブ・マッカーティ先生」, 『耳から英語マガジン: English Station』, 東京: アルク, 2006年1月, 共著

IV. 学会発表

- (1) “Interfaces to amplify Bilingual Education, Japanese Socioculture and Podcasting Technologies.” International Conference on Diversity and Community in Applied Linguistics: Interface, Interpretation, Interdisciplinarity, 於: Macquarie University, Sydney, Australia, 2006年9月21日

- (2) “Podcasting to amplify the College EFL Curriculum.” 全国語学教育学会年次国際大会 JALT 2006 International Conference, 於：Kitakyushu International Conference Centre, 2006年11月3日

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) “Japanese People and Society.” 国際協力機構（JICA）, Japan International Cooperation Center, 於：Osaka, 2006年2月8日, 3月29日, 8月16日
- (2) “A Family goes through Japanese Education.” 米国 North Central College, School Observers program, 於：大阪女学院大学・短期大学, 2006年7月6日
- (3) 「視野を広げる遠隔学習：その分野、技術、コミュニケーション」, NPO 国際情報科学協会, 於：神戸インキュベーションオフィス, 2006年3月16日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) World Association for Online Education, President
- (2) Asia-Pacific Association for Computer-Assisted Language Learning, Executive Board Member
- (3) チャイルド・リサーチ・ネット アドバイザリー・ボード・メンバー
- (4) ベネッセ・コーポレーション 新プロジェクトのメイン監修

VII. 科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 外国語オーラルコミュニケーション能力自動評価システムに関する研究開発, 2005年度～2006年度

元 百合子（もと・ゆりこ）〔国際人権法・国際関係学〕

II. 学術論文

- (1) 「人身売買対策における人権の主流化：欧州審議会の新条約を中心とする一考察」, 『大阪女学院大学紀要』2号, 2006年3月, 単著
- (2) 「マイノリティの民族教育権に関する意見書」（東京地方裁判所に提出）, 『統一評論』490号と491号, 2006年8月と9月, 単著

III. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) 「人身売買に関するヨーロッパ諸国の国内的・地域的対応」, *IMADR-JC BOOKLET* 10号, 2006年5月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「移住労働者と家族の権利に関する国際人権基準」, 民主法律協会・日本国際法律家協会関西支部, 於：ふじ総合法律事務所, 2006年1月8日
- (2) 「マイノリティの民族教育権」, 民主法律協会・日本国際法律家協会関西支部, 於：ふじ総合法律事務所, 2006年3月30日
- (3) 「マイノリティの民族教育権」, 人権政策研究会, 於：法政大学, 2006年8月21日
- (4) 「マイノリティの民族教育権」, 全国大学人権教育交流会, 於：大阪人権センター, 2006年12月3日

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 「今も続く米軍による毒物使用とその被害」, 民主法律協会・日本国際法律家協会関西支部, 於：ドーンセンター, 2006年4月27日
- (2) 「枯葉剤問題：米国政府と薬品製造企業の国際法上の責任」, 日本ベトナム友好協会, 於：大阪市梅田東学習ルーム, 2006年10月13日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大阪経済法科大学アジア太平洋研究センター 客員研究員、運営委員
- (2) 反差別国際運動日本委員会 企画運営委員

中井 弘一（なかい・ひろかず）〔英語教育・教授法〕

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 「ディベートとは何か」, Japan Debate Association 日本ディベート協会, 於：京都橘大学, 2006年3月18日
- (2) 「ビジネスにおけるディベート能力」, 下関青年商工会議所, 於：下関海峡メッセ, 2006年7月2日
- (3) 「これから求められるディベート能力の育成」, 大阪市教育委員会, 於：大阪市教育センター, 2006年7月24日, 27日
- (4) “Haiku in English and Cross Cultural Communication.” 文部科学省・堺市教育委員会, 於：ソフィア堺, 2006年12月7日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 文部科学省 SELHi 企画評価会議 協力委員
- (2) 大阪府立寝屋川高等学校学校協議会 座長
- (3) 大阪府立寝屋川高等学校 SELHi 運営指導委員会 運営指導委員

奥本 京子（おくもと・きょうこ）〔英文学・平和学〕

II. 学術論文

- (1) 「トランセンド関西企画（トランセンド研究会共催）トランセンド基礎講座報告（2005年9月24日）」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第1号, pp.21-27, 2006年8月, 単著
- (2) 「ソウルにおけるトランセンド研究会（Transcend-Japan）によるトランセンド・ワークショップ実践報告」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第2号, pp.75-82, 2006年12月, 共著

III. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) 「中日歴史問題と和解セミナー報告」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第1号, pp.1-11, 2006年8月, 共著
- (2) “Transcend Workshop in Shanghai Held on November 19, 2005 : For Deep Understanding and Firm Solidarity between China and Japan—A Message from Three Citizens of Japan—.” トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第1号, pp.12-16, 2006年8月, 共著
- (3) 「『2005年度 NGO・JICA 連携による実践的参加型村落開発コース』におけるトランセンド・ワークショップ実践報告」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第1号, pp.37-38, 2006年8月, 共著
- (4) 巻頭言「平和を創る発想転換」, 大阪 YWCA 機関誌（「大阪版」）2006年11月号, p.1, 2006年11月, 単著
- (5) 「ソウルにおけるヨハン・ガルトゥング博士招請平和講演会とワークショップ参加報告」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第2号, pp.83-86, 2006年12月, 共著
- (6) 「韓国キョンヒ大学 GIP プログラムにおけるトランセンド・ワークショップ実践報告」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第2号, pp.87-88, 2006年12月, 単著
- (7) 「韓国文解（識字）教育グループ対象の平和教育ワークショップ実践報告」, トランセンド研究会『トランセンド研究』第4巻第2号, pp.89-91, 2006年12月, 共著

IV. 学会発表

- (1) “Peace Education and Peace Creation: the Role of Textbooks and an Alternative Drama Project by TRANSCEND.” Jaipur Peace Foundation/Asia Pacific Peace Research Association (APPPRA/アジア太平洋平和研究学会), 於：インド、ジャイプール, 2006年1月7日
- (2) “Ho'o Pono Pono: Pax Pacifica” Workshop B : Reconciliation and Peace in North-Eastern

Asia.” World Peace Forum 2006, 共同発表, University of British Columbia, 於：バンクーバー, カナダ, 2006年6月25日

- (3) “Ho’o Pono Pono: Reconciliation Process in North East Asia.” ACTION Asia, 於：フィリピン, ミンダナオ, Balay Mindanaw Peace Center, 2006年10月27日

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 「トランセンド——紛争を超越する」, 非暴力平和隊・日本/ピースネット, 於：文京シビックセンター, 2006年2月4日
- (2) 「21世紀の平和学」, しんふじん（新日本婦人の会）中央支部, 於：ドーンセンター, 2006年2月9日
- (3) 「Peace Workshop on TRANSCEND」共同ファシリテーション, 東京外国語大学大学院地域文化研究科, 於：東京外国語大学府中キャンパス, 2006年2月16日
- (4) 「今なぜ憲法改正なのか？…平和学から考える」, 大阪府職員労働組合 中央地区評 青年部・婦人部合同, 於：府職労, 2006年2月28日
- (5) “The Transcend Peace Education Workshop.” 共同ファシリテーター, トラセンド研究会、コリア・プロジェクト・チーム, Pureum 他, 於：大韓民国、ソウル、明洞（ミョンドン）、ユネスコ・ビル（National Korean Committee of UNESCO）, 2006年3月3日～5日
- (6) 「創造力を通して——紛争の平和的手段による転換と文学の役割——」, 本学研究活動企画・推進委員会, 於：大阪女学院大学・短期大学, 2006年3月10日
- (7) 「憲法9条の状況と平和学——平和の創りかた——」, 「九条の会」奈良, 於：奈良県文化会館国際ホール, 2006年4月16日
- (8) 「トランセンド関西ミーティング」, トランセンド研究会関西, 於：大阪女学院大学, 2006年4月14日・7月21日・11月15日
- (9) 「平和学入門：身近なところから平和を考える」, 学習会講師ボランティア, 芦屋三條教会（日本キリスト教団）, 於：芦屋三條教会, 2006年5月14日・7月23日
- (10) 「子どものための平和学者会」, 学者会講師ボランティア, 芦屋三條教会（日本キリスト教団）, 於：芦屋三條教会, 2006年5月14日・7月23日
- (11) 「ヨハン・ガルトゥングによるトランセンド講演・ワークショップ」に、トランセンド研究会、コリア・プロジェクト・チームがアドバイザーとして同席, Pureum 他, 於：ソウル・Manhae NGO Center, 2006年5月24日・27日
- (12) 「平和学から考える平和のためのワークショップ」, 大阪いずみ市民生活協同組合 組織部, 於：いずみ市民生協 商品検査センター（三国ヶ丘）, 2006年6月15日
- (13) 「『トランセンド・ワークショップ』組織部職員向け研修のためのワークショップ」, 大阪いずみ市民生活協同組合 組織部, 於：大阪府立羽衣青少年センター, 2006年7月11日
- (14) 「世界平和フォーラムに参加して」共同報告：主催木戸衛一研究室, 於：大阪大学大学院国際公共政策研究科棟, 2006年7月19日
- (15) 「暴力のない社会をめざして：非暴力ワークショップ」, デヴィッド・グラントによる非暴力ワークショップの企画・運営・通訳, 非暴力平和隊・日本（NPJ）, 於：大阪クリスチャン・センター・大阪女学院大学, 2006年7月28～29日
- (16) 「平和学習ワークショップ『子どもたちに平和をどう伝えるか』」, 財団法人 大阪国際平和センター（ピースおおさか）, 於：ピースおおさか, 2006年8月3日
- (17) TRANSCEND Workshop, “Theory of TRANSCEND: Peace and Conflict.” Student Body Council, The Graduate Institute of Peace Studies (GIP), Kyung Hee University, 於：The Graduate Institute of Peace Studies (GIP), 南楊州（Namyangju）キャンパス, Kyung Hee University, 南楊州（Namyangju）, 韓国, 2006年8月29日
- (18) 「平和教育ワークショップ」, 韓国文解（識字）教育グループ, 於：KOKO Plaza 1階美術工

房, 2006年10月14日

- (19) 「第二回 Trainers' Training ワークショップ・トレーニング、ガルトゥング氏によるスーパーバイズを受ける」, 共同ファシリテーション, トランセンド研究会, 大阪女学院大学, 於: 大阪クリスチャン・センター, 2006年10月21~22日
- (20) ステップ②【体験! 平和を創る発想転換ワークショップ】(全2回) リーダーシップ養成のための講座、「平和学」講座<連続講座>平和学~平和を主体的に創るために~共同ファシリテーション:大阪YWCA人材育成・研修センター, 於:大阪YWCA シャロン千里, 2006年10月29日、11月5日
- (21) 高大連携プログラム「国際協力のための具体的提案」, 百合学院高等学校, 於:百合学院高等学校セシリアホール, 2006年11月21日
- (22) 「第1回交流ミーティング 企画・参加」, 非暴力平和隊・日本、非暴力平和隊・コリア, 於:大韓民国, ソウル, 2006年11月24~25日
- (23) 第7分科会「平和のつくりかた~具体的なことばと行動で平和をつくろう~ワークショップ」, 主催:みのお市民人権フォーラム21st 実行委員会分科会企画:「箕面市平和のまち条例をつくる会」, 於:らいとびあ21, 2006年12月3日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) トランセンド(平和的手段による紛争転換)研究会 事務局長
- (2) 非暴力平和隊・日本 理事
- (3) 国際トランセンド 国際トランセンド認証トレーナー
- (4) 日本平和学会 平和と芸術分科会責任者

関根 聡(せきね・あきら) [社会学]

II. 学術論文

- (1) 「家族関係における虐待—高齢者・家族員・介護支援専門員の関係を中心に—」, 『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢』7号, 2006年3月, 単著
- (2) 「大学生における性役割意識に関する一考察」, 『近畿大学人権問題研究所紀要』20号, 2006年3月, 単著

III. その他の著作(報告書・雑誌・新聞等)

- (1) 「女性大学生における性役割意識」, 『大阪女学院短期大学紀要』35号, 2006年3月, 単著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「高齢社会における家族という人間関係—世代間の関わりについて考えてみませんか—」 愛媛県人権対策協議会主催, 於:宇和文化会館, 2006年1月29日
- (2) 「高齢社会における家族という人間関係—世代間の関わりについて考えてみませんか—」 愛媛県人権対策協議会主催, 於:久万高原町農村環境改善センター, 2006年8月3日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 東大阪市社会福祉協議会:福祉と人権推進委員会 オブザーバー
- (2) 高槻市男女共同参画センター:男性セミナー企画運営委員会 会長
- (3) 高槻市男女共同参画審議会 委員

関根 秀和(せきね・ひでかず) [高等教育論, 社会学]

II. 学術論文

- (1) 「評価文化の形成に向けて」, 『大学教育学会誌』, 2006年11月, 単著

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大学教育学会常任理事
- (2) 近畿都市学会評議員

- (3) キリスト教文化学会理事
- (4) 大学設置審議会運営委員会委員・大学設置分科会特別委員
- (5) 大学評価・学位授与機構 評議員・短期大学評価委員会委員
- (6) 私立大学教育研究高度化推進専門委員
- (7) 短期大学基準協会副会長・第三者評価委員会委員長
- (8) 日本私立短期大学協会副会長
- (9) 大阪私立短期大学協会会長
- (10) 大阪府男女共同参画推進財団理事

V. その他の発表（シンポジウム・講演・放送等）

- (1) 大学教育学会シンポジウム（提言者）
- (2) 海外体験学習フォーラム（提言者）
- (3) セミナー「短期大学認証評価機関の取組みと事例」, 講師, 地域科学研究会・高等教育情報センター, 於: 全共連ビル, 2006年6月8日
- (4) 「大学教育学会第28回大会シンポジウム I」, シンポジスト, 於: 東海大学湘南校舎, 2006年6月10日~11日
- (5) 「認証評価の現状と課題について」意見発表, 第3期中央教育審議会大学分科会制度部会（第4回）, 於: 三田共用会議所, 2006年6月30日
- (6) 「大学教育学会課題研究集会」指定討論者, 大学教育学会, 於: 金沢大学, 2006年11月25日~26日

Swenson, Tamara (スェンソン・タマラ) [Mass Communication, International Communication, Media and Society, Writing and Composition, Second Language Acquisition]

II. 学術論文

- (1) "Literacy, reading and the future of American democracy." *International Journal of the Humanities*, (Volume 3, Issue 7). Joint: M. Tracey, 2006年9月
- (2) "News for inside, news for outside: Japanese media framing of Darfur." *Knowledge Societies for All: Media and Communication Strategies* (IAMCR). Joint: B. Visgatis, 2006年7月

IV. 学会発表

- (1) "Media attention, ethnocentrism, education." (with B. Visgatis) 於: Kitakyushu, Japan, 2006年11月5日
- (2) "The structural context of journalism within the Arab community: Comparing Al Ahram and Al Jazeera constructions of Muslim-on-Muslim genocide in Darfur Sudan." (with B. Mody, K. Kimmer, & K. Osis) *Knowledge Societies for All*, 於: Cairo, Egypt, 2006年7月26日
- (3) "Neighbors framing Darfur: South African and Egyptian media coverage." (with C. Skogberg-Eastman) *Knowledge Societies for All*, 於: Cairo, Egypt, 2006年7月25日
- (4) "News for inside, news for outside: Japanese media framing of Darfur." (with B. Visgatis) *Knowledge Societies for All*, 於: Cairo, Egypt, 2006年7月25日

田中 義信 (たなか・よしのぶ) [国際協力, 開発教育]

III. その他の著作（報告書・雑誌・新聞等）

- (1) 「大学と NGO の連携を考える」, 『草の根の連帯を求めて』, 2006年10月, 共著

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本ボランティア学会 監事
- (2) (特活) アジアボランティアセンター 監事

Verity, Deryn (ベリテイ・デリン) [English, ELT]

II. 学術論文

- (1) “How Professionals Think” (excerpt), *The Language Teacher (JALT)*, 2006年10月, 単著
- (2) “How Professionals Think: Private Speech in Teaching.” *JALT Conference Proceedings (Tokyo)*, 2006年11月, 単著
- (3) “Vygotskyan Concepts for Teacher Education.” *PanSIG Conference Proceedings (Tokyo)*, 2006年6月, 単著

IV. 学会発表

- (1) “Groups at Work: Pragmatics of Group Interaction (panel moderator).” Japan Association for Language Teaching Annual International Conference, 於: Kitakyushu, Japan, 2006年11月
- (2) “The Pragmatics of Coaching (workshop).” joint presentation with D. Fujimoto, PanSIG Conference (JALT), 於: Shimizu, Japan, 2006年5月
- (3) “Rehearsal and the Creation of an L2 Identity.” (academic paper), Japan Association for Language Teaching, 於: Kitakyushu, Japan, 2006年11月
- (4) “Let the data speak: A Vygotskyan Approach to Research.” (academic paper) joint presentation with D. Fujimoto Temple University Japan, 於: Osaka, Japan, 2006年2月
- (5) “Adapting course papers for publication (workshop).” joint presentation with S. Cornwell, Temple University Japan, 於: Osaka, Japan, 2006年2月
- (6) “Work in Progress—the move from facilitation to orientation.” (academic paper), Teacher Education SIG (JALT), 於: Okayama Japan, 2006年10月
- (7) “Exploring Professional Development through Language Awareness.” Fukuoka Jogakuen College, Invited Lecture, 於: Fukuoka, Japan, 2006年6月
- (8) “Using Whole Discourse Tasks for Language Teaching (workshop).” Fukuoka Chapter JALT, 於: Fukuoka, Japan, 2006年6月
- (9) “Using Whole Discourse Tasks for Language Teaching (workshop).” Kobe Chapter JALT, 於: Kobe, Japan, 2006年2月

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Invited as Academic Specialist to give workshops on Professional Development for Language Teachers in Jordan and Morocco Partnership for Learning program (sponsor: United States government).” US State Department, 於: Amman, Jordan and Tangier, Morocco, 2006年3月, 4月

山田 一美

II. 学術論文

- (1) “The Status of the Overt Pronoun Constraint in grammatical theory and SLA of Japanese.” 『外国語学会誌, 大東文化大学外国語学会』, 2006年, 単著

米田 信子 (よねだ・のぶこ) [言語学]

I. 著訳書

- (1) 『Vocabulary of the Matengo Language』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2006年3月, 単著
- (2) 『Bibliography of African Language Study: ILCAA 1964-2006』, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所, 2006年3月, 共編 (Kagaya, R & N. Yoneda eds.)

II. 学術論文

- (1) 「マテング語の『補完語』と情報構造」, 『言語研究の射程』加藤重弘・吉田浩美 (編), ひ

つじ書房, pp. 189–211, 2006年6月, 単著

- (2) 「マテンゴ語における『現在』と『未来』— 2種類の時間境界」, 『言語に現れる「世間」と「世界」』 中川弘之・定延利之 (編), くろしお出版, pp. 129–151, 2006年11月, 単著

III. その他の著作 (報告書・雑誌・新聞等)

- (1) 「世界の幼児語と子育て」, 『月刊言語』 9月号, 東京:大修館書店, 2006年9月, 共著 (スワヒリ語「子育ては女性みんなで」を担当)

IV. 学会発表

- (1) “The Information Structure and Word Order in Matengo.” Colloquium on African Languages and Linguistics, 於: Leiden 大学, オランダ, 2006年8月30日

V. その他の発表 (シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Topicalization and the Information Structure in Matengo.” *Seminar on African Languages and Cultures, Royal Museum for Central Africa*, 於: Royal Museum for Central Africa, Tervuren, ベルギー, 2006年3月3日
- (2) 言語動態学セミナー「アフリカ大陸の言語事情を考える」, Prof. Matthias Brenzinger による Multilingualism and Language Endangerment on the African Continent のコメンテーター, 於: 東京大学, 2006年7月24日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 近畿・大阪私立短期大学英語弁論大会 2001年～現在 総務委員

VII. 科学研究費補助金等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「アフリカにおける未開発言語の記述言語学的研究」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 企画調査 研究分担者 (研究代表者: 京都大学教授 梶茂樹) 2006年4月～2007年3月
- (2) 「南部アフリカ少数言語の教材開発および保護のための記述研究」科学研究費補助金 基盤研究 (C) 一般 研究代表者 2006年4月～2008年3月